

発表タイトル：小中高の理科教科書と学習指導要領における水文科学分野の学習内容

発表者：\* 上村剛史（同志社国際高等学校・非常勤講師）、山本知実（新興出版社啓林館）

概要：

地球惑星科学分野の教育は、地球環境や自然災害などの課題に対して、重要な一役を担うと考えられる。水文科学分野においても同様であり、特に学校教育は重要な役割を担っている。そこで、本研究では、小中高での学習指導要領や教科書における水文科学分野の学習内容を調査した。新学習指導要領では、小4で「雨水の行方と地面の様子」「天気の様子」、小5年で「天気の変化」を学習し、中学校では、主に中2で「気象観測」「天気の変化」「日本の気象」「自然の恵みと気象災害」を学ぶ。高等学校では科目が細分化され、基礎科目である「地学基礎」で「大気と海洋」「日本の自然環境」が、理系科目となる「地学」で「地球の大気と海洋」が扱われ、水循環の過程と収支まで扱われる。しかし、現場では、地学分野を専門とする小中学校の教員は少なく、高校においても地学の履修率や地学専門の教員数の低さという課題がある。今回調査をしていないが、関連の深い社会科・地理分野の動向にも注視し、学校教育の現状も踏まえながら、一般市民への普及や後継者育成の場をより充実させていく必要があると考えられる。